「ソフィアの歌」と大黒屋光太夫

生　田　美智子

は　じ　め　に

「ソフィアの歌」という歌がある。18世紀にロシアから帰還した大黒屋光太夫が日本に伝えたロシア歌謡をさす通称である。ところが，不思議なことに，ロシアに現存する18世紀の歌集をひもといても，管見のかぎり，「ソフィアの歌」というタイトルの歌は採録されていない。しかも，「ソフィアの歌」のどこにもソフィアという名前はでてこない。

だが，日本では，光太夫ファンの間で「ソフィアの歌」という通称の普及度は高く，大黒屋光太夫の生涯をあつかった森川久美のコミックや五木寛之のテレビの紀行番組のタイトルにもなっている。光太夫をめぐるエピソードの中で群を抜いて有名である。「ソフィアの歌」は光太夫の境遇と似通った歌詞を持つロシア歌謡であるというのが諸家の一致した見方だが，それを作詞した人については意見が分かれる。このため，従来の研究は，光太夫の悲恋とロシア歌謡の作詞者をめぐって展開され，光太夫がそれにつけたとされる訳詞はほとんど考察の対象とならなかった。

光太夫は留め置かれていた薬草園で桂川甫周にこの歌を伝えた。将軍家斉の蘭方侍医である甫周は，将軍臨席のもとで光太夫と磯吉の尋問をした後，幕府の密命をうけて，ロシア情報の聴取に光太夫のもとに通っていた。『北槎聞略』が完成すれば，光太夫が持ち帰った北方情報も封印されることになる。光太夫は何を思ったであろうか。『北槎聞略』は幕府献上本である。光太夫にとり，幕府に意見がいえる最後の場であった。光太夫の思いは『北槎聞略』にどのように反映されているのだろうか。

「ソフィアの歌」を仔細に見れば，ロシア語歌詞と光太夫の訳詞との間には興味深いずれが観察されるのだが，それはほとんどといっていいくらい着目されてこなかった。このずらしに光太夫が訴えたかったことがこめられているように思われる。光太夫の訳詞を軽視しては，日露文化交流史における「ソフィアの歌」の位置付けは十全なものにはならないであろう。本稿は従来の研究の視角からもれていた光太夫の訳詞におけるずれに隠されたメッセージを読みとろうとするものである。

1　「ソフィアの歌」をめぐる諸説

大黒屋光太夫はロシアから帰還，生きたロシアの体験者として，ロシアでの見聞内容を語った。みずからの経験に基づいているだけに，エピソードにいろどられ，持ち帰った品物に補強されて，かれの語るロシアの共時相はきわめて具体的で，いきいきしており，対露認識を転回させることとなった。

ロシアから光太夫が持ち帰ったそのような文物の中に「ソフィアの歌」が含まれていた。甫周と光太夫は『北槎聞略』の中にそのロシア歌謡を採録している。それを引用しよう。

> 光太夫が身のうへをブシが妹ソヒヤ・イワノウナ歌につくりてうたひはやらかし，都下一般にうたひけるとぞ。その唱歌は
> アハ　スクシノ　メニヤ　ナツゾイ　ストロネ　フセネミロ
> フセッポステロ　ドルガメロワネト　ドルガメロワネト　ナギレテラテ　ヤナシウェタ
> チトッピワロ　ウテシャーロ　ヲトム　プラッチノ
> 是は光太夫が訳せしなり。[1)]

桂川甫周は『北槎聞略』のなかで，ロシア語歌詞をカタカナで与え，光太夫の日本語訳を付けている。光太夫の証言によれば，この歌はブーシ（ツァールスコエ・セロの庭園長）の妹であるソフィアがつくり，それがサンクト・ペテルブルグで流行したというのである。歌の題名はない。

管見の限り，この歌をはじめて取りあげたのは，1934年，平岡雅英の『維新前後の日本とロシア』である。平岡は「漂民を詠んだ小唄」という章を設け，「ソフィア・イワノウナといふ娘は，哀れな漂民の身の上を小唄に作って，都下一般にはやらせた」と光太夫の証言をそのままくりかえしている。それだけではなく，不完全な部分を残したものではあったが，ロシア人に先駆けて，ロシア語歌詞の復元もこころみている。[2)]

一方，ロシアではB. M. コンスタンチーノフが，この歌についての論考を『ノーヴイ・ミール』誌1961年第5号に掲載し，ロシア語歌詞を復元しただけでなく，「ソフィアの歌」が1796年のイワン・ドミトリエフ編『ポケット民謡集』に採録された「ああ，やるせない，他国の空で」という出だしをもつ題名のない歌と同一のものであることをつきとめている。作詞者に関する情報はなかったが，1850年に出版された『Ю. A. ネレディンスキイ＝メレツキイ作品集』に類似の歌が収められていることから，ソフィア・イワノブナがつくった歌にネレディンスキイが少し手を加えたのであろうと推測している。ネレディンスキイ＝メレツキイは他の作品でも同様のことをしているからだという。さらにこの歌がデカブリスト詩人ルイレーエフとベストゥージェフ＝マルリンスキイにより反農奴制のプロテストソングに作りかえられ，さらにその後は軍歌に変貌したことを明らかにした。[3)]

1964年，亀井高孝は『大黒屋光太夫』を書き，「ソフィアの歌」という章を設け，コンスタンチーノフの論考を紹介した。[4)] さらに1966年，亀井は『文芸春秋』1月号に論文「ロシアでの光太

夫」を発表し，日本に残してきた「おしま」との悲恋に悩む光太夫のやるせない気持ちをソフィアがくみ取って詩人的感興の赴くままにうたいあげたのが「ソフィアの歌」であるとし，光太夫の悲恋とこの歌の主題をむすびつけた。[5] 翌1967年，亀井は『光太夫の悲恋』と題した本のなかで，ソフィアが作詞した歌がその後のさまざまなバージョン歌謡の本歌になったと推定している。[6] 光太夫とおしまの悲恋という話題性ともあいまって，「ソフィアの歌」という通称は，これ以後広く用いられるようになった。

1966年，中村喜和は，「あるロシア歌謡の歴史」という論文を発表し，「ソフィアの歌」を光太夫のもたらしたテクストを含めたすべてのバリアントの総称と仮定した。[7] かれはコンスタンチーノフが明らかにしたこの歌の歴史を新しい資料で補強しただけではない。1791年に再版が出たロシア民謡集の中にすでにこの歌が収録されていることを発見したのである。中村は，ソフィアが光太夫と知り合ったのは歌集の初版が出た翌年に当たるので，ソフィアが光太夫のためにいかなる歌もつくらなかったとはいえないが，ネレディンスキイ＝メレツキイがソフィア・イワーノヴナの作品の一部を借用したと考えることはできないとしている。中村は同時代の詩人 П. М. カラバーノフの作品に対しネレディンスキイ＝メレツキイが作った「返し歌」が歌謡集に採録され，それが本歌となって，いくつものバリアントを生んだものと推定している。[8] また，旋律はウクライナ民謡の「おお，緑の……」（「わが乙女よ」）からとられたものであることを明らかにした。

1967年，コンスタンチーノフは，『今日のソ連邦』誌1967年２月１日号に発表した「ソフィアの歌」という論文で，ソフィアが「この歌をつくるにあたって，当時すでにあった民謡を本歌にして，その歌詞をいくらか変えたのだ，といえなくもない」と，中村の発見にこたえ自説を訂正したが，ソフィアの作詞とする見解を捨てていない。

1987年，中村新太郎は『日本人とロシア人』の中で，光太夫モデル説を展開している。「ソフィアは，あわれな漂民の身の上を歌謡曲につくった。この歌は，光太夫がペテルブルグ滞在中に，早くも民謡集にとりいれられ，歌いはやされたという。たいそう長い歌であり，その内容は，恋いこがれあった男女が，思いがけなく別れ，いつ再会できるか期しがたいかなしみを，恋人どうしが問答式にうたう形式をとっている[10]」。

その後も，光太夫をモデルにソフィアが作詞したとする説，ソフィアが当時の流行歌のなかで光太夫の身の上にぴったりくるものを歌ってきかせたとする説，ソフィアが当時の流行歌を少しつくりかえてうたったとする説などがあり，諸家の意見は一致をみていない。

本稿では，「ソフィアの歌」を「光太夫が伝え，桂川甫周が書き写した『北槎聞略』採録のロシア歌謡」と定義することにする。「ソフィアの歌」のロシア語歌詞を復元し，オリジナルの歌詞と光太夫の訳詞とを比較したいが，その前に，まず18世紀後半ロシアの音楽文化状況を一瞥しておこう。

2　18世紀後半ロシアの音楽文化における新風

光太夫が滞在していた頃のロシアの音楽文化はどのような状況にあったのだろう。大きくいって次のような特徴があったと思う。[11]

第1は，ロシアにおける18世紀後半は音楽と詩歌が合体した音楽詩歌文化の嵐のような発達の時期である。18世紀の卓越した詩人で，多かれ少なかれその作品が歌にならなかったような詩人はいないといわれる。詩は散文と違って，声に出すことを前提とする。詩が優勢であった18世紀，文学は深く音楽とかかわっていた。

第2は，ロシア歌謡の生成である。ロシア歌謡とは，世俗的なロマンスで，何らかの楽器，たとえば，クラブサン，ピアノ，グースリ，ギターといった楽器の伴奏をともなう単旋律のソロのための歌である。もっともジャンルとしてのロマンスそのものはそれ以前からロシアで根付いていたが，カント（器楽伴奏なしの多声，おもに三声の歌）全盛期には「アリア」といわれていた。「ロシア歌謡」という用語がはじめて用いられたのは，1774年，雑誌『音楽の楽しみ』であったとされる。それ以来「ロシア歌謡」という用語は多種多様な叙情歌謡をさすのに用いられるようになった。すなわち，本来の民謡，民謡を模倣した流行歌，「最新の俗謡」と18世紀には呼ばれていた都市の商人の流行歌，古典詩人の牧歌，18世紀末詩人のセンチメンタルな恋愛歌などを包含していた。一見すると不定形に見えるこのタームは，ロシアの世俗的ロマンスの源泉と種類の多様性を反映している。人々はそれぞれの分野でそれぞれの歌の世界をもつようになったのである。

第3に，次々と歌集が出版され，広く普及した。記念碑的な歌集としては，1770年—74年に，M. Д. チュルコフの『さまざまな歌の歌集』4巻が出版された。それは，1780—81年にH. И. ノヴィコフにより『恋愛，牧童，コミック，庶民，コラール，婚礼，クリスマス週間の歌を内容とし，さまざまなロシアのコメディやオペラからの歌を添えた最新ロシア歌謡全集』6巻として改訂増補出版された。これらの歌集には民謡とならんで，ロシアの詩人のつくった歌も（だれの著作かを明記せずに）採録された。楽譜つきの歌集も出版されるようになった。1776—95年にはB. Ф. トゥルトフスキイの『楽譜つきのロシア庶民の歌謡集』4巻が出版された。1781年にはФ. メイエルの『書籍商Ф. メイエルの資金により出版された最良のロシア歌集』が出版された。

なかでも光太夫が滞在した1790年代には多くの歌集が出版された。思いつくままに列挙すると，1790年には，『新ロシア歌謡集または恋愛，輪舞，牧童，舞踊，演劇，ジプシー，小ロシア，コサック，クリスマス週間，庶民の歌ならびに現在の戦争における敵の敗北を記念した歌謡，その他さまざまな機会にちなんでつくられた歌145曲　第1部』が出版された。同年，H. A. リボフとИ. Г. プラチの共著である『イワン・プラチの採録による楽譜付きロシア民謡集』がでている。翌1791年には，すでに述べた『新ロシア歌謡集〈中略〉145曲　第1部』が再版され，その続編である『新ロシア歌謡集〈中略〉142曲　第2部』が出版された。翌1792年にはM. ポポフの『ロシアのエラトまたは最良最新のロシア歌謡選』が出ている。1795—96年には，И. Д. ゲルステンベルグの『音楽愛好家のための1795年度ポケット本』と『音楽愛好家のための1796年度ポケット本』が出版された。同96年には，И. ドミトリエフ編『ポケット歌謡集，もしくは最上流社会と庶民の歌集成』が出ている。1797—98年には，И. Д. ゲルステンベルグがФ. A. ディトマルと共著で『歌謡集または出版者が採録した古いロシア民謡と新しいロシア民謡，ピアノのための同様の歌全集』を出版している。1795—99年にはO. A. コズロフスキイの『ロシア歌謡集』4冊本がでている。

第4に，替え歌の流行である。ポピュラーな民謡あるいは流行のロマンスのメロディを用いて

替え歌をつくることが18世紀後半のポエジーにとって流行現象となった。旋律と歌詞が同時に新しくつくられるものもあったが，流行歌の多くは既成の旋律にあわせて，歌詞がつくられた。詩人は旋律を示すことで，読者に歌うことを提案したのである。このような曲に対する指示がはじめて雑誌に出たのは60―70年代のことであった。とくに90年代の出版物には替え歌の指示が多かったという。人々は印刷された流行歌の歌詞を見て，それを替え歌としてうたい，流行歌をたのしんだのである。

第５に，ロシアの音楽文化とウクライナの音楽文化の相互豊饒化がおこなわれた。ウクライナのテーマがロシアの作曲家の創作に取りいれられたり，ウクライナの民謡がロシアの音楽雑誌や歌集に直接収録された。たとえば，すでに述べたトゥルトフスキイはウクライナの出身で，ロシア宮廷のグースリ奏者兼歌手であった。かれはロシアとウクライナの民謡を集め，編曲し，演奏もした。

以上のような18世紀後半ロシアの音楽文化状況の特徴を視野にいれた上で，光太夫が持ち帰った「ソフィアの歌」をながめ直すと，流行歌としての特徴が鮮やかによみとれる。

第１に，この歌は流行の「ロシア歌謡」である。第２に，この歌は再三ロシア歌謡集の中に採録されており，歌集出版がブームであったことをうかがわせる。第３に，この歌には「わが乙女よ」の替え歌であるとの指示がついている[12]。第４に，「わが乙女よ」（「ああ，森よ，森，緑の森よ」）はウクライナ歌謡であり，この歌はロシアとウクライナの文化的豊饒化の典型例である[13]。

以上のように，ウクライナ文化とロシア文化，口頭伝承文化と出版文化というハイブリット（異種混合）な特色をもつ流行歌を，光太夫は日本に紹介したといえる。

3　「ソフィアの歌」のロシア語歌詞

「ソフィアの歌」のロシア語歌詞の復元は，平岡雅英，B. M. コンスタンチーノフ，中村喜和が，すでにおこなっている。このうち定説となっているのは，コンスタンチーノフの歌詞である。岩波文庫の『北槎聞略』の注もこれを採用している[14]。それを引用しよう。

ああ　たいくつや　我 アハ　スクシノ　メニヤ	Ах, скучно мне
他（ひと）の　国 ナツゾイ　ストロネ	На чужой стороне!
苦々たのむ フセミロ	Все не мило,
みなみなすてまいぞ フセッポステロ	Все постыло
なさけないぞやおまえがた ドルガメロワネト	Друга милого нет,
なさけないぞやおまえがた ドルガメロワネト	Друга милого нет,
見むきもせいで　あちらむく ナギレテラテ　ヤナシウェタ	Не глядел бы я на свет.
うらめしや　つらめしや チトッピワロ　ウテシャーロ	Что бывало утешало,
いまは　なくばかり ヲトム　プラッチノ	О том плачу я.

まず，ロシア音のカタカナ表記から見てみよう。カタカナ表記に対応するロシア語がないもの

もあるが，この歌は光太夫が伝えた歌を桂川甫周が書き取ったということを忘れてはならない。甫周は光太夫からきいた歌詞を書きとめ，将軍に献上する前に清書したであろう。清書の際に，よく似た字形のカタカナを書き違える可能性がある。第一は，「ナギレテラテ　ヤナシウェタ」であるが，「ナギレテラテ」は「ナ　ギレデラ　ブ」であろう。「テ」と「デ」は，濁点の有無のちがいである。江戸時代は，濁点の有無はコンテクストにゆだねられることが多かった。また「テ」と「ブ」は形状がよく似ているので，まちがえたのであろう。第二に，「チトッピワロ」は「チト　ビワロ」の転写間違いであろう。「ピ」と「ビ」は半濁点と濁点がちがうのみである。第三は，「ヲトム　プラッチノ」は「ヲトム　プラッチ　ヤ」の間違いであろう。「ヤ」と「ノ」も字形がよく似ている。

次に，ロシア文字による復元であるが，唯一カタカナ表記と不整合をみせているのは，〈Не глядел бы я на свет〉である。中村喜和はカタカナ表記が「ラ」になっているので，ロシア語動詞の形を女性形〈глядела〉に改めるべきであるとしたが，筆者も光太夫が伝えた音形から判断して中村の指摘は正しいと思う。ただし，その場合には歌全体が女性の立場で歌われたものになってしまう。

光太夫が伝え，甫周が書き取ったロシア語歌詞だけでは，オリジナルのロシア語歌詞を特定できない。さらに，当時のロシア歌謡と照らし合わせておかなければならない。

現在のところ，最初のバージョンとみなされるのは，1790年の歌集に収録されている24番の歌である（90年バージョン）。光太夫がペテルブルグにくる1年前のバージョンである。作詞者や旋律に関する情報はまったくないが，返し歌であるとの指示がついている。全体像をつかむために，相聞歌となっている23番と24番を引用することにする[15]。ただし，正書法は適宜現行のものにあらため，該当歌詞はゴチック体にした。

23	23番
Ах ! тошно мне	ああ！　やるせない
На своей стороне !	自分のくににありながら！
Отъезжаешь,	立ち去るのね，
Покидаешь	見捨てるのね，
Мил сердечной меня.	愛しい人は，私を。
Голубчик ты мой !	愛しいあなた！
Разлучаюсь я с тобой ;	あなたと別れる私；
Здесь не будешь,	あなたはここにいなくなり，
Позабудешь,	忘れてしまうのね，
Что была я твоя.	私があなたのものであったことを。
А я молода	私はうら若く
Буду помнить всегда,	いつまでも憶えているわ，
Как со мною	私と
С молодою	うら若い私と，

Миловался дружок.	あなたが愛しあったことを。
Дорожкой пойду	小道を行けば
Во зеленом саду,	緑なす庭なのに,
И листочки	葉も
И цветочки	花も
Все поблекнут, мой свет.	すべて色褪せてしまう，恋人よ。
А где ты с другой,	あなたが他の女性を
Свыкнешься, драгой ;	受け入れれば，恋人よ ;
В дни осенни	秋の日にも
Дни весенни	小春日和が
Там проглянут для вас.	あなたがたのために現れる。
Вздохни обо мне	私を思って嘆いてよ
На чужой стороне ;	他国の空で ;
Вздохнувши,	ため息をつき,
Вспомянувши,	昔を思いだして,
Прослезися хоть раз.	せめて一度は涙をながして。
А я для тебя	あなたゆえ，私は
Изсушу всю себя ;	身をこがすでしよう ;
По разлуке	はなればなれで,
Буду в скуке	うれいのなか
Лишь тебя вспоминать.	あなたを思い出してばかり。
24　Ответ	24番　返し歌
Ах ! грустно мне	ああ！　悲しい
На чужой стороне !	他国の空で！
Всё не мило,	すべてが気にくわず,
Всё постыло,	すべてがいやだ,
Со мной милыя нет.	愛しい人はそばにいない。
Здесь милой моей нет,	わが愛しい人はここにいない,
Постыл мне белой свет ;	この世にはうんざりだ ;
Что бывало	かつてしばしば
Утешало,	なぐさめられたこと,
Теперь плачу о том,	今はそれをしのんで泣く。

Ах ! милая моя !	ああ！　恋人よ！
Осталась от меня ;	置き去りにされた人よ；
Против воли	心ならずも
В тяжкой доле	つらいさだめに
Буду жить без тебя.	君なしで生きよう。
Куда не пойду	どこへ行こうと
Я тебя не найду ;	君はいない；
Постылы	いやだ
И не милы	気にくわない
Все места без тебя.	君なしではすべての所が。
Нет другой никакой,	いかなる女性も
Равнялась бы с тобой ;	君とは比べられないだろう；
Вздыхаю,	溜息をついては,
Вспоминаю,	思い出す,
Как была ты со мной.	君とともにすごした時を。
Представляю себе,	思い浮かぶは,
Говоришь будто мне ;	語りかけてくる君の姿；
Забываюсь,	われを忘れ,
Откликаюсь,	こたえる,
На твой голос везде	君の声にいずこでも。
Мне всякой день	くる日もくる日も,
Твоя мнится тень ;	浮かぶは君のおもかげ；
Обернуся,	振り返えれど,
Оглянуся,	振り向けど,
Ах ! нет никого.	ああ！　誰もいない。
Здесь милой моей нет,	恋人はここにいない,
Пойду за ней во след :	彼女の足跡をたどろう：
Где б ни крылась,	どこに潜もうと,
Ни таилась,	かくれようと
Сердце скажет мне путь.	恋心が道を告げよう。
Не мило уже нигде,	すでにいずこも気にくわない,
Грусть равна мне везде ;	どこでも僕には悲しみ；

Поражает,	いためつけ,
Разлучает	ひきさく
Рок жестокой меня.	残酷なさだめが僕を。
Свершилось всё со мной,	あらゆることがあった,
Разлучился с драгой ;	恋人と別れた ;
Сердце рвется,	心は破れ,
Мысль мятется,	思いはみだれ
Миновался покой.	やすらぎは去った。
На своей стороне	自分のくににいても
Не забудь обо мне ;	僕のことを忘れないで
Вздыхавши,	思いなげき
Вспоминавши,	昔をしのび
Будь также верна мне.	貞淑なままであっておくれ

この歌の24番の第１節と第２節が「ソフィアの歌」に似通っている。異郷に旅立つ男性を慕う女性の歌（23番）にこたえて，異郷にいる男性が故郷に残してきた女性を恋しがる歌（24番）である。日本に残してきた「おしま」を慕う光太夫の気持ちとぴったり重なる。だが，個々の詩句が示す音は光太夫が覚えて帰ったものとは，かなり違う。

光太夫が覚えてきたロシア語歌詞は，翌1791年に出たこの歌集の続編（第２部）に採録されている63番[16]との類似性がはるかに高い。それを引用しよう。該当個所はゴチック体とする。

Ах ! тошно мне	ああ！　やるせない
На чужой стороне !	他国の空で！
Всё не мило,	すべてが気にくわず,
Всё постыло	すべていや
Друга милаго нет.	恋しい人はいない。
Друга милаго нет,	恋しい人はいない,
Не гляделаб я на свет,	世の中見るもいとわしい,
Что бывало	かつてしばしば
Утешало,	なぐさめられたこと,
О том плачу теперь.	それをしのんで今は泣く。
В любимом леску	お気にいりの森で
Я питаю тоску,	うれいにしずめば,
Все листочки,	いずれの木の葉も,

Все кусточки,	いずれの木立も,
Там об милом мне твердят.	恋しい人のことを語っている。
Представя самой,	思い描けば,
Что сидит милой мой,	恋しい人がいる,
Забываюсь,	われをわすれ,
Откликаюсь	こたえる
Часто на голос твой.	しばしばあなたの声に。
Ах ! где дарагой	ああ！　あなたが
Свыкается с другой,	他の女性を受け入れれば,
Дни осенни	秋の日が
Для веселья	なぐさめようと
Там проглянут для вас.	あなたがたのために現れる。
Ах ! тошно мне	ああ！　やるせない
На своей стороне,	自分のくににありながら,
Слезы льются,	涙がながれて,
Не уймутся,	とまらない,
В них отрада моя.	泣くことが私のなぐさめ。
Ах ! как-то мне жить,	ああ！　どう生きればいいの,
Ах ! как-то мне тужить,	ああ！　どう嘆けばいいの,
Отъезжает	立ち去るのね
Покидает	見捨てるのね
Мил сердечной дружок.	愛しい友は。
Голубчик ты мой,	恋しいあなた,
Разлучаюсь я с тобой,	あなたと別れる私,
Где ни будет	どこにいようと
Не забудет,	忘れないで,
Что была я твоя.	私があなたのものであったことを。
А я молода	私はうら若く
Буду помнить всегда,	いつまでも憶えているわ,
Как со мною	私と
С молодою	うら若い私と
Миловался дружок.	あなたが愛しあったことを。

Дорожкой пойду	小道を行けば
Без тебя во саду,	ひとりで歩く庭は
Все листочки,	いずれの木の葉も
Все кусточки,	いずれの木立も
Все заблёкнут без тебя.	あなたなしではすべて色褪せる。
Вздохни обо мне	私を哀れんでよ
Во чужой стороне,	他国の空で,
Вспомянувши,	思いだして,
Воздохнувши	溜息をついて
Хотя слезку пролей.	せめて一粒涙をながして。
А я молода	私はうら若く
Сушу всё себя ;	身をこがし ;
Я в разлуке	別れても
Буду в скуке	うれいのなか
О тебе всё вспоминать.	あなたを思っていることでしょう。
Ах ! тошно мне	ああ！　やるせない
На своей стороне,	自分のくににありながら
Всё не мило,	すべて気にくわず,
Всё постыло,	すべていや,
Друга милаго нет	恋人はいない
Друга милаго нет	恋人はいない,
Я пойду за ним в след,	あの人の足跡をたどろう,
Где б ни скрылся,	どこに隠れようと,
Ни таился,	ひそもうと,
Сердце скажет мне путь.	恋心が道を告げる

この歌の出だしの１節，２節は，「スクーシノ（たいくつ）」が「トーシノ（やるせない）」になっている以外，光太夫が紹介したロシア語歌詞と同一だといっていい。歌全体は，90年バージョンのような男女の相聞歌ではなく，女性の嘆きの歌になっている。

「ああ，やるせない」という歌には，今ひとつ男歌（1796年）バージョン[17]がある。紙数の関係で，出だしの１節と２節のみを引用する。

Ах ! тошно мне	ああ！　やるせない
На своей стороне ;	他国の空で ;

Все уныло,	すべて気がめいる,
Все постыло :	すべていや :
Моей милыя нет !	わが恋しい人はいない !
Моей милыя нет :	わが恋しい人はいない :
Не глядел бы я на свет :	世の中見るもいや :
Что бывало	かつてしばしば
Утешало,	なぐさめられたこと,
О том плачу теперь.	それをしのんで今は泣く

この歌だと，男性の嘆きの歌なので，光太夫の気持ちにはぴったりくるが，1791年の63番に比べ，個々の詩句の音があまりにずれる。

「ああ，やるせない，他国の空で」の出だしをもつ歌が収録されている歌集は他にも見られるが，ささいな詩句の違いを無視し，主題の違いのみに着目すれば，このタイプのいずれかに分類できる。すなわち，第1のタイプは異郷にいる男性を慕う女性の歌とそれに対する男性の返し歌で，相聞歌を構成するもの。第2のタイプは，男女の相聞歌ではなく，一方的な嘆きの歌である。下位区分として，女性の嘆きの歌（Aタイプ）と男性の嘆きの歌（Bタイプ）がある。

ロシア語の音から判断して，光太夫が伝えたロシア語歌詞は，女性の嘆きの歌，つまり第2のBタイプのバージョンであろうと思われる。

4 「ソフィアの歌」の作詞者

ロシアに現存する歌集に採録されている「ああ，やるせない」の歌詞が問題になるとき，作詞家をめぐる議論で浮上してくる詩人は，ネレディンスキイ＝メレツキイとカラバーノフである。ピョートル・マトヴェーエヴィチ・カラバーノフは1764年にスモレンスクに生まれ，1829年にペテルブルグで亡くなっている。モスクワ大学を卒業すると，カラバーノフは文学活動を開始する。かれの詩が最初に印刷されたのは，1785年8月のことであった。カラバーノフは宮廷詩人で，頌詩，祝賀の合唱，ロシア軍の凱旋歌，誕生歌，洗礼歌，婚礼歌，葬礼歌などをつくった[18]。生前に二度詩集がでているが，そのいずれにも1790年の歌集に収録されていた23番の詩が収録されている。出だしの1節の1行目と2行目が23番のように，「ああ，やるせない，自分のくににありながら」ではなく，「ああ，どう生きればいいの，ああ，どう嘆けばいいの」に変わっている以外，まったく同一である[19]。これは，故郷にいる女性が異郷にいる恋人を慕う気持ちを詠んだ歌で，光太夫が覚えて帰ってきた歌を引き出す刺激を与えた歌である。「ソフィアの歌」のロシア語歌詞はここには含まれていない。

カラバーノフの歌に対する返し歌を書いたのは，ネレディンスキイ＝メレツキイというのが定説になっている。

ネレディンスキイ＝メレツキイの個人著作集は1850年に出版されたが，その中に収録されてい

るのは，次に引用するバリアントである。紙数の関係で出だしの１節，２節のみ引用する。

Ох！тошно мне	ああ，やるせない
На чужой стороне；	他国の空で
Всё постыло,	すべていや
Всё уныло：	すべて気がめいる
Друга милова нет.	恋しい人はいない
Милова нет；	恋しい人はいない
Не глядела б на свет	世の中見るもいとわし
Что, бывало,	かつてしばしば
Утешало,	なぐさめられたこと
О том плачу теперь.	それをしのんで今は泣いている

これは，「ソフィアの歌」と似通っているが，５つの点でちがっている。第１は，第１節の第１行目の「アハ（アフ）スクシノ」が「オフ　トーシノ」になっている点である。第２は，第１節第３行目の「フセ（フショ）ネミロ」が「フショ　パストゥイラ」になっている。光太夫が覚えて帰った歌詞では，第４行目にきていた詩句である。第３は，第１節第４行目の「フセッポステロ（フショ　パストゥイラ）」が「フショ　ウヌィラ」になっている。第４は，第２節第１行目の「ドルガミロワネト」が「ミローヴァ　ニェート」になっている点である。第５は，第２節第５行目の「ヲトム　プラッチ　ヤ」が「オ　トム　プラチュ　チェピェーリ」になっている。1791年の63番にくらべ，違っている点が多すぎる。

カラバーノフの歌に対する返し歌を書いたのがネレディンスキイ＝メレツキイであるからといって，「ソフィアの歌」の作詞家と彼を同一視していいものだろうか。

ユーリイ・アレクサンドロヴィチ・ネレディンスキイ＝メレツキイは1752年にツァーリの宮廷に近い関係にある貴族の家庭に生まれ，1828年にカルーガで亡くなっている。1769—70年ストラスブール大学で学ぶ。大学を中退したかれはロシアに戻ると，近衛連隊に勤務し，高官になっている。1769年から74年まで露土戦争に参加した。戦後，かれの連隊が駐留していたペテルブルグで社交界に出入りする。1785年退官し，モスクワに引っ越し，中学校の校長となる。1796年，パーヴェルⅠ世が即位すると，ネレディンスキイ＝メレツキイは軍務に返り咲き，二等文官の官位を取得，元老院議員に任命された。晩年の二年間は，カルーガで過ごした。

文学活動の点では，かれは才能あるディレッタントで，同時代人からはロシアのアナクレオン（ギリシャの恋愛詩人）といわれた。かれの作品には，二つの流れがある。一つは，サロン的，フランス的な傾向の作品で，今一つは，フォークロア的な傾向の作品である。[20]

マコゴネンコによれば，かれが有名になったのは1780年代末からであるという。[21] ネレディンスキイ＝メレツキイの詩は，20世紀になってからも何度となく出版された。そのうちのひとつに詩人文庫小型シリーズの『18世紀の詩人たち』（1958年）がある。それには1796年と年号の付された「ああ，やるせない，他国の空で」が収録され，「ネレディンスキイの源泉になったのは民謡の

『ああ，やるせない』である」と注が付されてあった。[22] この作品に，1791年の年号を付す詩集（1965年）もある。[23] だが，すでに見たように，18世紀に出た歌集や1850年に出たかれの作品集には年号はない。

ネレディンスキイ＝メレツキイの本格的は研究は現在に至るもなされておらず，実証的にこの作品がいつできたのか，特定するのは難しい。だが，われわれの関心はネレディンスキイ＝メレツキイの作品にあるのではなく，「ソフィアの歌」にある。

音から判断した場合，「ソフィアの歌」にきわめて近い音構成を持つロシア民謡は1791年の63番（女性の嘆きの歌）であった。すでに見たように，民謡集に収録されている「ああ，やるせない」の歌は，1790年バージョンと1791年バージョンとでは大きな違いがあった。男女のダイヤローグであったものが，女性のモノローグにかわったのである。

よく観察すれば，91年バージョンは90年バージョンの23番（カラバーノフの作品）と24番（ネレディンスキイ＝メレツキイの作品）のコラージュであることがわかる。すなわち，1節，2節には，90年バージョンの24の1節，2節の変形がきている。3節は1単語のみが23の4節と共通するにすぎない。4節には24の6節の変形がきて，5節には23の5節の変形，6節は23の1節の変形，7節は23の1節の変形，8節は23の2節の変形，9節は23の3節，10節は23の4節の変形，11節は23の6節の変形，12節は23の7節の変形，13節は24の1節の変形，14節は24の8節の変形である。このように，91年バージョンは，90年バージョンの23番と24番を混合したものである。しかし，てんでばらばらに断片を組み合わせたのではなく，新しい内容の節をつけ加え，全体を通じて女性が男性を慕っている歌に編集してある。

これがネレディンスキイ＝メレツキイの作品だろうか。彼はこの頃すでに名の知れた詩人であった。文字を使うことになれている詩人が，臆面もなく，自分より若い宮廷詩人であるカラバーノフの作品を自分の作品にまぜ合わせるだろうか。

『北槎聞略』の中で，光太夫は，ソフィアが彼の境遇を歌にしたため，それがペテルブルグで流行したと語った。光太夫の証言は，やはり本当のことをいっているのではないだろうか。歌の中の女性が故郷にいたり，異郷にいたり，いささか統一性を欠くのは，23番と24番で使用された出来合いの材料を用いた，無名の素人の作品だからではないだろうか。

その後19世紀になってからも，「ああ，やるせない，他国の空で」は歌集にしばしば収録されたが，ある時期，出版が中断される。1825年，専制と農奴制の廃棄をかかげて武装蜂起を行った青年貴族の将校（デカブリスト）の反乱後，この歌をうたうことが禁止されたのである。

デカブリストのルイレーエフとベストゥージェフ＝マルリンスキイにより「ああ　やるせない他国の空で」は「ああ，やるせない　故郷にありながら」という農奴制批判のプロテストソングにかえられたのである。デカブリストは，「ああ，やるせない」という決まり文句を用いて，祖国にいながら家畜のように売買され，地主と国家に労働力から金銭まですべてしぼりとられる農奴の悲惨な境遇を描いた。最初に活字にしたのは，デカブリストの後継者を自負するゲルツェンである。1859年，かれは，亡命先のロンドンの自由ロシア出版所で出していた文集『北極星』にこれを採録した。この歌にもいろいろなバージョンが見られる。[24]

さらに，「ああ，やるせない，他国の空で」は，1828年の露土戦争におけるヴァルナ要塞陥落を記念して，「ああ，たいくつ　他国の空で」という兵士の歌にも作り替えられた。[25] 近衛兵たち

は，楽譜なしでこの歌をつくったという。はやり歌の旋律をそのまま用い，歌詞だけをもじったからこそ，トルコのヴァルナ要塞陥落を記念して，戦場で歌が誕生しえたのであろう。これもバージョン群をもつ。作詞者の名前は伝わっていない。

「ああ，やるせない，他国の空で」の歌の歴史を概観したが，カラバーノフとネレディンスキイ＝メレツキイ，ルイレーエフとベストゥージェフ＝マルリンスキイ以外は，替え歌を作った人の名前は現在では忘れられている。だが，はやり歌の制作には多くの人々がたずさわり，かれらの参加により歌謡は広く普及し，遠くトルコの要塞ヴァルナでも替え歌の軍歌が歌われたのである。

ソフィアもそのような無名の作詞家のひとりではなかったろうか。彼女は，ツァールスコエ・セロの兄の家に寄宿している光太夫と知りあった。

少し説明を加えよう。伊勢の船頭大黒屋光太夫が乗組員16人とともに伊勢の白子港から江戸へ向かう途中遭難したのは1783年のことだった。８ヶ月の漂流のすえ，ロシア領アムチトカ島に漂着。カムチャツカ，オホーツク，イルクーツクで帰還嘆願運動を続け，女帝エカテリーナⅡ世に帰国を直訴するためにペテルブルグに到着したのは，1791年２月のことであった。到着後２日して帰国嘆願書を女帝付秘書官長ベズボロトコに提出したものの，道中の費用を出し，同行してくれた恩人のアカデミー会員のキリル・ラクスマンが発病し，危篤状態に陥ってしまう。看病に明け暮れる間に，いつしか５月になっていた。５月１日，女帝はペテルブルグから南へ約30キロのところにある別荘ツァールスコエ・セロに出かけてしまう。この夏の移動は毎年の慣例で９月１日にならないと女帝はペテルブルグにもどらないことを知った光太夫はあせる。ラクスマンに懇願し，ツァールスコエ・セロの庭園長ブーシの家に寄宿し，帰国願いの返事をまつ。

このオシプ・ブーシの妹がソフィア・イワーノヴナである。その間，光太夫は女帝に拝謁がかない，直接帰国を訴えるものの，帰国願いに対する返事が長い間もらえず，悶々とした日々をおくる。その時の苦しい胸の内を『絵本写宝袋』の上部余白に女帝付秘書官長ベズボロトコへのうらみ・つらみとして綴りながらも，かれの家に足しげく出入りし，帰国を働きかけている。また，オランダ公使にも帰国に協力してくれるよう，働きかけている。このような光太夫の身の上を，ソフィアが歌にしたというのである。

『魯西亜文字集』という書物には「光太夫がロシアで直接間接に接した170名の人々の名が挙げられている[26]」。そのツァールスコエ・セロの人物群像の情報から判断して，ソフィアは独身だったと考えられる。苗字からして，北欧出身者である可能性が高い[27]。光太夫と知りあった頃，ツァールスコエ・セロには兄オシプと兄嫁とその娘，姉のカテリーナとデボラ，カテリーナの夫で英国人のカルロ，その娘のマリアとその夫のギルシ，カルロの甥がいた。在ロシアの外国人が集まっている生活空間でソフィアは自己をロシア人とアイデンティファイしていたであろうか。

光太夫に歌をうたった時，ソフィアは自分の気持ちを歌に託さなかっただろうか。1790年には男の歌であったのが，女の歌になり，その女が異郷にあっても故郷にあっても嘆いているのは，ソフィアの心情と無関係だろうか。

「ソフィアの歌」にはバージョンが多い。このバージョンの多さは，「ソフィアの歌」がフォークロアとしての存在形態を持っていたことを示している。フォークロアはそれぞれが自分流に歌うものである。それを反映して，現存しているテクスト群には可変性が見られると同時に不変性

が見られる。18世紀に広く人口に膾炙した「ソフィアの歌」は，19世紀には，その親近性の故に，抵抗歌や軍歌にもなったのである。

5　光太夫の訳業

光太夫の訳詞を検討した先行研究に，中村喜和の労作がある。綿密な研究で，本稿はこの労作に負うところが多い。だが，中村は光太夫の訳業に関しては，「光太夫の訳にはいわゆる逐語訳とそうでない部分が入りまじっている」とするだけで，たちいった考察をしていない。光太夫の逐語訳でない部分，たとえば，「いとしい友（恋人）はいない」と解せられるところを「なさけないぞや……」としたのは，公儀への遠慮によるものかもしれないとみなしている。その理由として，『北槎聞略』では「リュブリュ（愛している）」に訳語を与えていないことをあげている。だが，光太夫は，この語の命令形である「リュビー（愛しておくれ）」に「愛（あいす），好（すいた）」という訳語を与えている。しかも二度にわたってこの単語は登録されているのである。筆者には彼の訳詞がずれているのは他の理由によるものと思われる。

比較のために，甫周のバイヤスがかかる以前の光太夫自身のロシア語歌詞の復元と訳詞をかかげ，次に筆者によるロシア語歌詞の復元とその拙訳をかかげることにする。

（光太夫のロシア語歌詞）	（光太夫の訳詞）
アハ　スクシノ　メニャ	ああたいくつや
ナ　ツゾイ　ストロネ	我　他（ひとの）の国
フセ　ネ　ミロ	皆々たのむ
フセッ　ポステロ	みなみなすてまいぞ
ドルガ　メロワ　ネト	なさけないぞやおまえがた
ドルガ　メロワ　ネト	なさけないぞやおまえがた
ナ　ギレデラ　フ　ヤ　ナ　シウェタ	見むきもせいで　あちらむく
チト　ビワロ	うらめしや
ウテシャーロ	つらめしや
ヲ　トム　プラチ　ヤ	いまは　なくばかり

（復元されたロシア語歌詞）	（拙訳）
Ах ! скучно мне	ああ，たいくつ
На чужой стороне !	他国の空で
Всё не мило,	すべてが気にくわず
Всё постыло,	すべていや
Друга милого нет.	恋しい人はいない

Друга милого нет,	恋しい人はいない
Не глядела б я на свет.	世の中見るもいとわし
Что бывало	昔よく
Утешало,	なぐさめられたこと
О том плачу я	それをしのんで泣く

まず，ずらしの箇所を指摘し，それが誤訳によるものか，故意の操作によるものかを，光太夫の語彙力と文法力から判定してみよう。

第１に，「我」の位置であるが，ロシア語では１行目にあり，たいくつという状態にある気分の担い手になっている。光太夫の日本語歌詞では「我」は２行目にあり，他国という空間に位置する主体のようになっている。より他国にいる自分が強調される。「他の国」を用いたのは，ロシア語の「チュジョイ」は「スヴォイ（自分の，身内の）」と対立する概念であるので，名訳といえる。

光太夫は田沼意次の時代の江戸を実体験していた。約10年ぶりで帰国した光太夫にとり日本は，他国のようであったろう。1785年には有名な蝦夷地の探検調査が行われた。外交貿易の面でも当時の中国とオランダとの貿易が拡大された。江戸の町には外国の品があふれ，流行現象となっていた。鎖国緩和の動きが見られた田沼時代を杉田玄白は次のように言っている，

> その頃より世人何となくかの国持渡りのものを奇珍とし，総べてその舶来の珍器の類を好み，少しく好事と聞えし人，多くも少くも取り聚(あつ)めて常に愛せざるはなし。ことに故(もと)の相良(さがら)候当(とう)路(ろ)執政の頃にて，世の中甚だ華美繁花の最中なりしにより，かの舶(ふね)よりウエールガラス（天気験器），テルモメートル（寒暖験器），〈中略〉ループ（呼遠筒）といへるたぐひ種々の器物を年々持ち越し，その余諸種の時計，千里鏡，ならびに硝子細工物の類，あげて数へがたかりしにより，人々その奇巧に甚だ心を動かし，その窮理の微妙なるに感服し，自然と毎春拝礼の蘭人在府中はその客屋に人夥しく聚(あつま)るやうになりたり。[29]

『北槎異聞』によれば光太夫はピアノを持って帰ろうとしたが，道中壊れるおそれがあるので，あきらめている。外国で居住した者が帰国すれば死刑になる恐れがあるのに，ピアノのように人目をひくかさ高いものを持って帰ろうとしたのは，この時代の動きと無関係ではあるまい。

『我衣』によれば，光太夫は江戸で木綿商に従事していたことがあった。かれがあれだけ熱心にロシアやその他の外国事情の収集に励み，万難をはいして帰国したのは，ロシアとの交易を射程に入れていたからではないだろうか。田沼時代の重商主義的な空気をすっていた光太夫にしてみれば，寛政の改革後の日本に他国を感じたのではないだろうか。

第２に，ロシア語の歌詞の「すべて気にくわない」では，「フショ」は中性単数で抽象的にすべてのものをひっくるめてとらえ，それが気にくわないと事実をのべている。光太夫は「フショ」の複数形と考えられる「皆々」を用い，まわりによびかけ，「たのむ」と懇願している。「フショ」のパラダイム（語形変化表）に入る「フセ」を用い，それを梃子に文全体を情報提示ではなく，相手に働きかけ，懇願する文に変えている。光太夫は一体何を皆々に懇願したのか。それ

は，次の行の訳詞があきらかにしてくれる。

次行は，ロシア語歌詞では「すべていやだ」であり，すべてのものをまるごととらえ，何もかもいやだとなっている。光太夫は，またも「フショ」と「フセ」を変換させて，文全体を「みなみなすてまいぞ」にしている。自分もすてることを拒否し，相手を同じ行為に誘う共働の命令である。自分の気持ちをこめた誘いかけであり，自分の決意表明でもある。自己の思想的立場を鮮明にする一種の宣言であったとも見ることができる。何をすてないのかは明示的な形では示されていない。それをあぶりだすために，この時期の光太夫の言動と照合することが必要であろう。

約1年前，光太夫は将軍臨席のもとで幕閣の尋問に答えた。その内容は『漂民御覧之記』として有名である。その中に次のような問答がある。

問　武芸は稽古致し候哉。

答　右の体，一向見及び申さず候，足軽体の人の鉄炮稽古仕り候を，見物仕り候，専ら足の踏みやうをならひ申し候，弓は侍のもち候は見及び申さず候，猟師のもち候を見懸け申し候，至って麁末（そまつ）なるものにて，やはり蝦夷人の弓同様にて御座候，刃物ははなはだ鈍く，一向切れ申さず候，金色は荒砥にて白研（しらとぎ）に仕り候如くに御座候。[30]

この問答は，ロシア側からの交易要請が拒否され，ロシア使節団が帰国した後に行われたが，ロシアに対する警戒心を幕府に抱かせぬように慎重な発言をする光太夫の答弁からは，交易の望みを捨てていないことがうかがえる。

次の行の「ドルガ　メロワ　ネト（ドルーガ　ミーラヴァ　ニェート）」は，恋人がそこにいないということをいう非存在の文である。光太夫訳は，「なさけないぞやおまえがた」と相手を叱責している。全然関連のない語彙が用いられている。単語の意味が分からなかったのであろうか。『北槎聞略』の露和対語集では「ドローク（ドルーク）」（友人）を「相識（しるひと）」とし，「ネイト（ニェート）」（いない）には「無（なし）」の訳語を与えている。否定生格に関しては，存在しないものを表現する文法形式として，どの程度認識していたかは即断できないが，文例としては「ネコーネト（ニカヴォー　ニェート）」（誰も来ぬ）など，若干の例が観察される。いずれにせよ，ほとんどの単語が分かっているので，語彙力から判断して解読できたと思われる。

おまえがたとは誰か。幕府献上本である『北槎聞略』が読者として想定しているのは，将軍と幕閣である。どの点でかれらはなさけないのか。次行の訳詞があきらかにしてくれる。

次行は，ロシア語歌詞では「世の中みるのもいとわし」だが，光太夫訳では「見むきもせいであちらむく」となっている。まったくかけはなれたような印象をあたえるが，ロシア語歌詞では，「見る」というが動詞が仮定法で与えられている。「見る」は『北槎聞略』では観察できないが，『魯西亜弁語』では「ギレジネヲホタ（グリャヂェーチ　ネ　アホタ）」（見たくない）という表現があり，「見るもいや」という訳が与えられている。だが，ロシア語歌詞の中で使用されているのは仮定法である。仮定的願望に反する現実の状態を悲しむことを表現する形式で，実際にはこの世の中を見ているのであるが，あまりにいやな世の中なので，見ずにすむならば見たくないという願望を表現している。光太夫が書き残した文例に仮定法は該当例がない。「過去形プラス бы」という語形は話し手が心の中で仮定したことを述べるで叙想表現であり，マスターしていなかっ

た可能性がたかい。光太夫は，「見る」という動詞を用いて，これを「見むきもせいで」と周囲への非難にかえている。

「ソフィアの歌」は『北槎聞略』巻之九に収録されている。聞き書きが終われば，海外を見てきた男の情報も封印されてしまう。光太夫は商人の目でロシアを見てきた。国際都市イルクーツクやペテルブルグで生活し，極北東アジアやヨーロッパの実状をつぶさに見てきたが，世界の流れは鎖国ではなかった。日本と通商を開きたいというロシアの願望が熟しているのも目撃してきた。しかも，ロシアは９月13日に出発して10月９日に根室につける距離に位置する隣国である。ロシアが木綿を自国では調達できず輸入に頼っていることを，再度指摘したのは市場として着目していたからであろう。

なぜロシアの交易要請を一顧だにせず，見向きもしないのか。なさけない。「ソフィアの歌」が載った頁からすぐの所（岩波文庫本では次頁），『北槎聞略』巻之九の最後に，ラクスマンや来日使節団の言葉が次のようにしるされている。すなわち，日本が諸外国をおそれるのは，日本が国を閉ざし，外国の様子に通じていないので，日本との交易を独占し続けたいオランダの情報操作におどらされているからであると。この提言は，「ソフィアの歌」の訳詞の中で明示的な形で書くことができなかった部分を正しく解読させるための参照枠であるような気がする。

次行以降は，ロシア語では「昔よくなぐさめられたこと，それをしのんで泣く」となっているが，光太夫訳では「うらめしや　つらめしや　いまは泣くばかり」と，うらみ，つらみの感情を吐露している。光太夫はペテルブルグでもうらみ，つらみの感情を女帝付秘書官長のベズボロトコに対し抱き，それを武者絵本の上部に落書きの形で書き記していた。トルコとの戦争で忙しいロシアに帰還用の船を出してくれるよう談判したが，その返事は長い間もらえなかった。苛立った光太夫は，銭はくれず，オランダにも身柄をひきわたさず，女帝にも取り次ごうとしない鬼めと，ベズボロトコをののしっている。招かれざる客の身分にあっても，これだけのうらみ，つらみを述べる人間である。かれの行動様式，思考様式から考えて，万難をはいし帰国，貴重な情報と人脈を持って帰ってきたのに，それを封印しようとしている自国の幕府に対してもうらみ，つらみの気持ちは抱いていたであろう。

光太夫訳は，冒頭の「ああ，たいくつ　他国の空で」という決まり文句と最終行の「いまは泣くばかり」が文法的にも語彙的にも完全にロシア語歌詞に一致している。「ああ，やるせない他国の空で」の歌のバージョンであることを示す道具立てはきちんと保持している。「ああ，やるせない　他国の空で」バージョンが共有する枠組みはきちんとはめて，その中を日本の時代状況に即した歌詞に変更したのではないだろうか。光太夫は，日本語訳というよりは「ソフィアの歌」の1794年日本バージョンを作詞したのだと思う。

終　わ　り　に

光太夫は10年のロシア滞在の後，遣日使節団に送り届けられて帰国した。ロシアでは帰国嘆願に奔走する毎日で，アムチトカ，カムチャッカ，オホーツク，ヤクーツク，イルクーツク，ペテルブルグを移動した。シベリヤ大陸は二度にわたり横断した。女帝に拝謁，堂々と帰国を直訴，

遣日使節団派遣による護送という成果を得る。

帰国後も蝦夷から江戸へ旅をして将軍家斉臨席のもとで尋問に答えた。嵐のような毎日だっただろう。そのあとは薬草園へ留め置かれ，ロシアのことをみだりに口にするなと言われ，許可なく外出できなくなる。妻子をよびむかえてもよいとの沙汰がくだされたが，光太夫は若い娘を妻にした。「おしま」とは依然として伊勢と江戸に別れたままであった。「ソフィアの歌」の境遇そのままである。

山下恒夫が発見した文書によれば，光太夫には内縁の妻がいた。山下は，それを「おしま」だとみなし，「おしま」は光太夫帰国当時，生存していたと仮定している。[31)]

かれが「ソフィアの歌」の日本語歌詞に託した思いは「おしま」への恋慕の気持ちではなく，「おまえがた」，つまり，『北槎聞略』の読者である将軍と幕閣への叱責と自己の決意表明だった。光太夫はロシアでも残留せよという役所の決定を再三拒否し，漂民扶助費支給を打ち切られても初志を貫徹し，帰国を果たした人間である。光太夫は自意識という近代的な精神の芽生えをもっている人間であった。ロシア情報に箝口令をしき，薬草園に留め置いた幕府の沙汰に満足せず，それに対する異議申したてをこの歌にこめたのだと思う。

それから30余年。ラクスマン使節団が来航した時老中であった松平定信は，松平家と関係の深い信最寺に「江戸大黒屋光太夫寄進」の銘のある梵鐘を寄進したという。都築正明によれば，現住職は，定信が光太夫の名前で鐘を寄進したのは，光太夫に対する処遇の仕方に感ずるところがあり，詫びの気持ちも含めてのことではなかったかと推測しているという。[32)] 定信には，「ソフィアの歌」にこめた光太夫の気持ちが分かっていたのではないだろうか。

寿命の長い旋律とちがって，歌詞はそれぞれの歴史的な時代を刻印して変貌をとげている。旋律を作るのに比べ，替え歌をつくることは，それほど音楽的素養のない者にもできる。それぞれが，叙情詩人となって，言わずにはおれない自分の思いを託したのである。ソフィアも光太夫も，そのような人々の一人であったのではないだろうか。

「ソフィアの歌」は，ネレディンスキイ＝メレツキイの作品とフォークロアの境界を横断しただけではなく，訳詞と替え歌の間を横断し，恋歌と抵抗歌と軍歌の間を横断し，日本文化とロシア文化の間を横断した歌といえよう。

注

1） 桂川甫周著・亀井高孝校訂『北槎聞略』，岩波文庫，岩波書店，1990年，248頁。

2） 平岡雅英『維新前後の日本とロシア』，ナウカ社，1934年，129—131頁。

3） M. B. Константинов. Первая русская песня в Японии. Новый мир. 1961. №. 5. C. 279-280.

4） 亀井高孝『大黒屋光太夫』，吉川弘文館，1964年，211—218頁。

5） 亀井高孝「ロシアでの光太夫」，『文芸春秋』，1966年，1月号，92—93頁。

6） 亀井高孝『大黒屋光太夫の悲恋』，吉川弘文館，1967年，70—81頁。

7） 中村喜和「あるロシア歌謡の歴史—いわゆる「ソフィアの歌」について」，『言語文化』，1966年，第3号，一橋大学，28頁。

8） 同上，46—47頁。

9） 『今日のソ連邦』1967年2月1日，36—37頁。

10） 中村新太郎『日本人とロシア人』大月書店，1978年，80頁。

11）次の文献を中心にまとめた。Песни и романсы русских поэтов. Библиотека поэта. Большая серия. М., -Л. 1965. / Поэты 18 века. Библиотека поэта. Малая серия. 1958. / Русская музыкальная литература. Вып. 1. Ленинград. 1982. / Русские песни 18 века. Песенник И. Д. Герстенберга и Ф. А. Дитмара. М. 1958. / Собрание народных русских песен с их голосами на музыку положил Иван Прач. Под редакцией и с вступительной статьей В. М. Беляева. М. 1955.

12）Стихотворения Петра Карабанова нравственные, лирические, любовные, шуточные и смешанные, оригинальные и в переводе. Часть первая. М. 1812. С. 244

13）Русские песни 18 века. Песенник И. Д. Герстенберга и Ф. А. Дитмара. М. 1958. С. 319.

14）桂川甫周著・亀井高孝校訂『北槎聞略』，岩波文庫，岩波書店，1990年，465頁。

15）Новый российский песенник, или Собрание любовных, хороводных, пастушьих, плясовых, театральных, Цыганских, Малороссийских, козацких, святочных, простонародных, и в настоящую войну на поражение неприятелей и на разные другие случаи сочиненных 145 песен. Часть первая. СПб. 1790. С. 27-30.

16）Новый российский песенник, или Собрание любовных, хороводных, пастушьих, плясовых, театральных, Цыганских, Малороссийских, козацких, святочных, простонародных, и в настоящую войну на поражение неприятелей и на разные другие случаи сочиненных 142 песен. Часть вторая. СПб. 1791. С. 65-67.

17）Карманный песенник, или собрание лучших светских и простонародных песен. Ч. 1, 2, 3. М. 1796. С. 84-85.

18）Песни и романсы русских поэтов. Библиотека поэта. Большая серия. 1965. С. 113

19）Стихотворения Петра Карабанова нравственные, лирические, любовные, шуточные и смешанные, оригинальные и в переводе. Часть первая. М. 1812. С. 244-245.

20）Литературная энциклопедия. Т. 7. 1934. М. С. 708-709.

21）Г. П. Макогоненко. Русская литература 18 века. Л. 1970. С. 553.

22）Поэта 18 века. Библиотека поэта. Малая серия. 1958. С. 514.

23）Песни и романсы русских поэтов. Библиотека поэта. Большая серия. 1965. С. 127-128.

24）См. Литературное наследство. Декабристы=литераторы. Т. 59. М. 1954. С. 85-100.

25）Сборник солдатских, казацких и матросских песен. СПб. 1886. С. 20.

26）亀井高孝・村山七郎『魯西亜文字集』，吉川弘文館，1967年，45頁。

27）同上，58—59頁。

28）杉田玄白著・緒方富雄校注『蘭学事始』，岩波文庫，岩波書店，1959年，23—24頁。

29）「漂民御覧之記」，『石井研堂これくしょん　江戸漂流記総集第3巻』，日本評論社，1992年，103頁。

30）山下恒夫「大黒屋光太夫のふるさと妻」，『思想の科学』，1995年12月号，60—75頁。

31）都築正則『光太夫が幕府に伝えたロシア』，光太夫シリーズ6，大黒屋光太夫顕彰会，1997年，22—23頁。

引用に際し，ルビは適宜省略した。